

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

# ICER Newsletter

## JMOOC「味と匂いの科学技術」の結果報告

### 受講結果の報告とその成果について



教材開発センターが制作した第4弾 JMOOC「味と匂いの科学技術」は、九州大学味覚・嗅覚センサ研究開発センター長の都甲潔教授が講義をご担当になり、2016年9月23日～10月21日まで JMOOC から開講をしました。今号はその受講結果を速報します。

まず受講者及び修了者についてですが、受講者は698人でした。うち修了者は278人で、修了率は40%という教材開発センターで開講したMOOCでは最も高い修了率となりました。修了者からは、「都甲先生が、難しい内容をテンポよく、わかりやすく、ユーモアを交えて、説明をしてくださった」という意見が多数寄せられました。修了者は、日本からだけでなく、ロシア、台湾、スペイン、タイなど海外からの修了者も

8人含まれていました。またフルタイムの社会人が半数を占めており、年代別で見ると、60代が最も多く77人、ついで40代50代と続いており、本講座が生涯教育に大変役に立ったことがうかがえます(図1)。ページログ数では、平日よりも週末に学習していた傾向がうかがえ、特に、金曜日の15:00～23:00に学習をしている受講者が多いことがわかりました

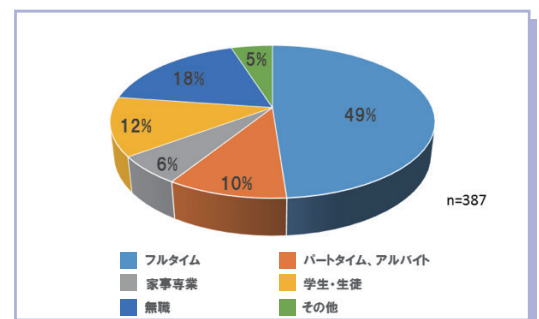


図1 受講者の職業

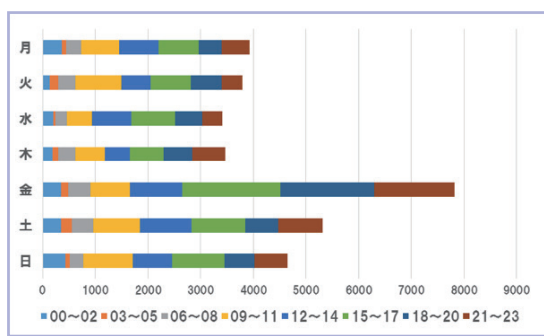


図2 曜日と時間帯のページログ数

(図2)。金曜日に、社会人が仕事から解放されMOOCで学習してくださったようです。また字幕については、88%の修了者が日本語字幕を活用し、「字幕が講義の内容理解を促す学習支援となっていた」というご意見を多数いただきました。そのような回答から、90%の修了者の「満足感」を得ることができました。

教材開発センターでは、今後も学習者に良質な学びの場の提供をしたいと考えています。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

【安西 弥生 准教授】

## 電子教材著作権講習会のご案内

12月20日(火)に電子教材著作権講習会を3キャンパスにて開催します。電子教材に含まれる他人の著作物の使用許諾申請や著作権者のガイドラインに基づく点検、教材作成者側のガイドライン提案など有用な内容です。ご自分の教材をお持ちいただいたり、学習資料をウェブで共有している学生の参加も可能です。この機会に是非ご参加下さい。

伊都	12月20日(火) 10:30～12:00	センター3号館1階 3105 セミナー室
箱崎	12月20日(火) 15:00～16:30	理系地区21世紀交流プラザⅡ 講義室1(中央図書館横)
馬出	12月20日(火) 17:30～19:00	総合研究棟1階104 セミナー室

※対象は本学に在籍する全教職員、大学院生および学部学生

お申し込み・詳細はこちら ▶ [http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics\\_20161107](http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics_20161107)

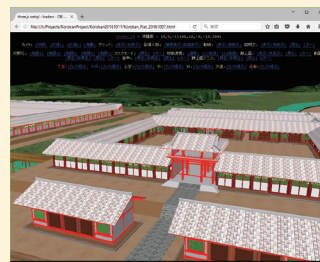
## 鴻臚館のVR・ARによる教材開発

昨年度から福岡市の「福岡城・鴻臚館を活かした観光都市戦略事業」の一環として福岡市とNPO 法人福岡城市民の会と連携し教材開発を行っています。

これまでに基幹教育院総合科目「Mobile Application Development Tutorial」における鴻臚館の観光用モバイル AR アプリケーションを開発する取り組みや、Web ブラウザで鴻臚館の3DCG再現モデルの中を歩き回りながら平安時代の鴻臚館の様子を体験できるVRアプリケーションを開発しています。この成果は今年1月に開催された「福岡城市民の会 第2回市民フォーラム」において報告しました。

今年度は、これらを引き続き実施するとともに、福岡城・鴻臚館の案内標識のイラストを手掛けられた室川康男氏の水彩画に動きを付ける機能や説明機能の追加により、教材としての完成度を高める取り組みをしています。この成果は来年1月28日(土)に開催の「福岡城市民の会 第4回市民フォーラム」において報告する予定です。

【岡田 義広 教授(教材開発センター長)】



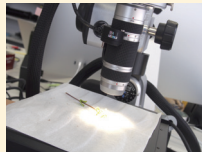
▲鴻臚館3DCG再現モデル

## 2D/3D 教材開発システムの紹介 ～ vol.1 ～

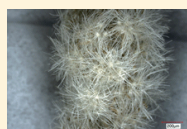
### vol.1 デジタル顕微鏡

現実世界に存在している生物や鉱物等の画像をデジタルデータとして保存しておくことで、後から何時でも研究資料や教材として活用することができます。

デジタル顕微鏡は、特に、肉眼では見ることが難しい有形物の細部を拡大してデジタル画像データ化する装置です。



教材開発センターが所有していますデジタル顕微鏡は20～200倍の倍率で細部を拡大したデジタル画像データを取得できます。先生方がお持ちの昆虫標本や鉱物、考古学等の有形資料をデジタル画像データ化されたい場合に、デジタル顕微鏡を是非ご利用下さい。



▼教材開発センターでは、下記の機材を貸し出しています。先生方の講義・研究資料の作成や講義の収録にお使いください。

【岡田 義広 教授(教材開発センター長)】

## 撮影から学んだ「学問のすすめ」

九州大学で先生方の講義などを撮影し始めて1年が経ちました。基幹教育科目から専門科目の講義、教職員向けの講習会、学外へ向けた講演など実に多様なイベントを撮影する機会をいただきました。

各分野の専門家の解説や意見を聴けるということで、撮影しながら日々新しい概念や価値観が飛び込んできます。業務を行いつつも横断的に多様な分野の講義などに参加できることは、またとない貴重な経験となっています。

MOOCなどのインターネットを用いた学習コンテンツを活用することで、いつでもどこでも手軽に学習できるようになりました。特にMOOCは、新しい分野を学び始めるときや興味がある分野に少し触れてみたいときに大いに活用できます。

これからも教材開発センターの一員として映像制作の技術向上に努め、多くの人が自発的に学習できる環境づくりおよびアクティブラーナーの育成の一端を担っていきます。

【森 淳也(テクニカルスタッフ)】



## ～教材開発支援機材システムの貸し出しについて～

お問い合わせ、お申込みフォームはこちらから

▶ [http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast\\_use\\_apply](http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast_use_apply)

- ① デジタル顕微鏡
- ② 光学式モーションキャプチャー装置
- ③ 3D スキャナー
- ④ 3D プリンター
- ⑤ ハイスピードカメラ
- ⑥ 視線追尾装置
- ⑦ 講義収録配信システム

## 大学ICT推進協議会 2016年度年次大会 & Q-Conference 2016に出展します

今年度も大学ICT推進協議会ならびにQ-Links(九州地域大学教育改善FD/SDネットワーク)の年次大会Q-conference 2016に参加し、教材開発センターの活動報告を行います。大学ICT推進協議会では本学の安浦寛人 理事・副学長が「大学におけるICTの活用の今後」と題し基調講演を行います。また、岡田義広 教材開発センター長は企画セッションにオーガナイザーとして出席し、大学ICTについての報告や議論を行う予定です。

### 大学ICT推進協議会 2016年度年次大会

【開催期間】 2016年12月14日(水)～12月16日(金)  
【場 所】 国立京都国際会館(京都市左京区)

### Q-Conference 2016

【開催期間】 2016年12月10日(土)  
【場 所】 中村学園大学(福岡市城南区)

